

# 第5分科会（小・中学校・今日的教育課題）報告

提言テーマ「子供の居場所づくり」～教育支援室「スマイル」との連携～

提言テーマ「教育活動の質を高めるための学校づくり」～校内外の連携を通して～

提言者 唐津市立鬼塚小学校 栗本 洋二  
記録者 唐津市立湊小学校 浦元 奈美  
司会者 嬉野市立久間小学校 坂井 まゆみ

提言者 鹿島市立鹿島東部中学校 横尾 文雄  
記録者 嬉野市立吉田中学校 土岐 洋二

## 【研究協議題】

- ・ 校内外の連携を通じた校長の役割について

## 1 質疑応答

Q 1 スマイルでの活動は、通知表では出席扱い、出席簿では出席扱いではなく但し書き扱いだということだが、要録上の扱いはどのようなになっているか。

A 1 唐津市教育委員会が出している出席簿の記録要領から回答。通知表は出席扱いとし、備考欄に教育支援室〇日と記載してもよい。指導要録では出席扱いとする。備考欄に教育支援室〇日と記載するとなっている。

Q 2 鹿島東部中学校では精力的に取り組んであるが、働き方改革の視点からはどうなのか、職員への理解を得るためにどんなことをされたか。

A 2 （働き方改革について）

個別最適な学びの実現につながると考え、鹿島市の小中学校でロイロノートの導入をすすめた。アプリは、「教材作成に時間がかからない」「生徒への教材配布や回収が簡単」など業務の効率化ができ、働き方改革につながっている。また、月1回行っている校区内の校長会で小中が連携して校時の変更などを進めている。

（職員への理解）

月1回の職員会議で校長会で話したこと研修会の内容を、資料をつかって丁寧に説明している。

Q 3 外部講師を招聘した保護者対象の情報モラル研修は実施したか。

A 3 各小中学校で年1回それぞれで実施していたが、地域の課題や実態に即していなかった。今回、アンケートで携帯電話の所持率を調査したところ、小学校1年生の3分の1が携帯電話（キッズ携帯でないもの）を所持していることや鹿島市では教育委員会、校長会、保護者会などで携帯電話のルールづくりを促しているが、実際は、21時以降も使用していたり、平日3、4時間使用していたりするなどの実態が明らかになった。東部中学校では、夏休みの二者面談や三者面談でプリントを配布し、ルールづくりを個別に呼び掛けている。

## 2 グループ協議報告・まとめ

### (1) Aグループ

児童生徒の別室対応については、特配要望とともに要求をした学校もある。適応指導教室は距離の問題がある。学校選択制の導入（大規模校の児童が小規模校を選択できる）や小規模特認校については、いずれも保護者の送迎が課題である。連携については、CSにより地域とのつながりが進んでいる学校も多いが目的にずれがあったり、変更が難しかったりと課題もある。児童生徒の課題については、校長が外部（病院）ともつながる必要も感じている。

### (2) Bグループ

子供の居場所づくりでは、地域でかなり差がある。サービスのいいところでは児童生徒の送迎を行う市町もある。市で人を雇っているところもあれば、地域の中から、元先生・民生委員の方々などに協力をいただいている学校もある。校長の役割は、小中連携や関係機関との連携、地域への働きかけなど。特に、定期的な民生委員との打ち合わせ、情報交換、お願い事をまめにするのが大切。

### (3) Dグループ

嬉野市の大規模校には校内に別室支援教室があり、常勤（6時間）の講師さん二人が交代で勤務。児童が通いやすい。武雄市では、適応支援教室「スクラム」教室があり、市の職員が担当している。市の関係機関がスマイル会議で協議をし連携している。また、神村学園がNPO法人と連携して小中学生の居場所「みんなの学校」を週4時間開催。交通費が市から補助されている。子供を卒業させても、中学校での状況を情報共有している。

小中連携の時間が取れず形骸化している中で、集まらずにチャットの中でワークシートを共有するなどのICTを利活用した連携などもあり、新しい連携の在り方を考えていければと考える。

### (4) Eグループ

校長には、行政への働きかけから、小中連携・中高連携、定期的な地域（民生委員）との情報交換など様々な役割がある。児童生徒の居場所づくりについては、地域によって差がある。伊万里市は、R7年度に予算化され、別室支援員が3名配置された。基山は、文科省の不登校対策事業がスタートし、予算は、国・県・市町が3分の1ずつを負担。鏡中では、退職校長がボランティアで別室支援員として対応してもらっている。

### (5) Fグループ

不登校については、学校だけでは限界があるので、市町や関係機関と連携していかなければならない校長としての役割はつなぐこと。生徒の自己肯定感や有用感を高めるには、生徒が前面に出ていく活動でも、職員と一緒に作り上げていくことが大切。

### (6) まとめ

児童生徒の今日的課題解決に向けては、関係機関や地域の人々との連携が欠かせない。本日、共有し合った各校の実践を参考に、自校の実情に合わせて支援体制・連携体制を強化していきたい。